

終章

1. 全体の総括

(1) 理念・目的

本学は、同志社設立以来の確固たる建学の精神、すなわち「良心教育」を継承し、これを具現化するための揺るぎない教育理念「キリスト教主義」、「自由主義」、「国際主義」を掲げて145年にわたり京都の地で未来を担う人物を養成し続けてきた。本学は、この教育理念に基づいた5つの総合的な教育目標や各学位課程における人材養成目的を明確に設定し、広く公表している。創立者である新島襄は、生前親交のあった勝海舟に「大学の完成には200年を要する」と述べている。本学は、目下のところ、同志社創立150周年にあたり、「同志社200年の大計」に向けた最後の50年間のスタートとなる2025年までを見据えた「同志社大学ビジョン2025」を打ち立てて、このビジョンに基づく「中期行動計画」を推進しているところである。

(2) 内部質保証

本学は、「同志社大学内部質保証推進規程」に基づき、自己点検・評価活動を基盤とし、大学の諸活動を所管ないしは統括する学長任命の各組織の役職者で構成する内部質保証推進会議が中心となって、各学部・研究科の運営に責任を負う学部長・研究科長及び主任職で構成する質保証委員会と連携する内部質保証推進体制を構築している。学長は、内部質保証推進会議からの提言を受けて、2019年度冒頭に「2018年度自己点検・評価結果を踏まえて対処する事項」を部長会で決定のうえ、全学的に諸施策を遂行し、PCDAサイクルの運用に取り組んできた。本学は、大学のあらゆる情報を大学ウェブサイトで公表するとともに、「同志社大学情報の公表」ページを設定して、様々な情報を体系立てし、明快な情報公表に努めている。さらに、本学の基本的な情報を「同志社大学基礎データ集」として収集し、過年度分も含め大学ウェブサイトで公表しており、情報発信における透明性が高い。

(3) 教育研究組織

本学は、二校地での教育体制を敷き、14学部16大学院研究科を設置している。今出川校地は、ゼミナールを中心とした専門教育を展開する文系学部の教育拠点、専門職大学院や独立研究科を核とした高度職業人の育成拠点及び海外一流大学が集積する国際的キャンパスと位置づけ8学部10大学院研究科を置いている。他方、京田辺校地は、実験・実習、フィールドワークを重視する自然科学系と文理融合系学部の複合的教育拠点、「Creative Hill」をコンセプトに「身体・生命、先端技術、情報」をキーワードとする国際的先端研究拠点と位置づけ6学部6大学院研究科を置いている。研究組織については、研究者の自由な発想を基本としつつ、研究開発推進機構の先端的教育研究拠点等の研究センターと附置研究所の部門研究が、様々な競争的研究資金をも獲得しながら研究活動を展開し、「組織」対「組織」の連携による大型研究も進展している。

(4) 教育課程・学習成果

本学は、「同志社大学教育の3つのポリシーを策定するための基本方針」に基づき、授与する学位ごとに学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を策定、公表している。教育課程の編成にあたっては、順次性・体系性に配慮するとともに、学士課程においては初年次教育等、博士課程においてはコースワークとリサーチワークの組合せ等、専門職学位課

程では理論教育と実務教育の配置等、各学位課程においてふさわしい教育内容を設定している。さらに、各授業科目では、学生の主体的参加を促すべく、授業形態、授業内容、授業方法で様々な工夫を講じている。学習成果の把握においては、「同志社大学におけるアセスメント・ポリシーの策定に関する基本方針」に基づき、授与する学位ごとにアセスメント・ポリシーを新たに策定した。博士課程及び修士課程では、学位論文又は特定の課題の研究成果の評価により学習成果を把握することとし、また、学士課程においても卒業論文を課す場合は、その評価を通して学習成果を把握することとしてルーブリックも策定した。アセスメント・ポリシーに基づく学習成果の把握は今後の取組となる。

(5) 学生の受け入れ

本学は、「同志社大学教育の3つのポリシーを策定するための基本方針」に基づき、学生の受け入れ方針を策定、公表している。公正かつ厳格な出題、実施及び採点体制を構築して適切に入学者選抜を実施している。定員管理については、学士課程では適切な状況にあるものの、修士課程及び博士前期課程において一部定員充足に課題がある。

(6) 教員・教員組織

本学は、「同志社大学が求める教員像及び教員組織の編制に関する方針」に基づき、各学部・研究科が定める規則の下、教員の募集、採用、昇任及び大学院任用を行い、大学設置基準上必要となる教員数を大きく上回る教員組織を編制している。2020年4月の時点では、大学院における研究指導教員及び研究指導補助教員も全ての研究科専攻において充足する。

(7) 学生支援

本学は、「同志社大学学生支援に関する方針」を策定、公表し、学習支援、正課外教育支援、経済的支援、生活支援、キャリア形成支援等、様々な制度や事業を整備している。これら支援の多くは学生同士のピア・サポートを軸として実施している。とりわけ、障がい学生支援については、歴史的にも実績があり、各大学を先導する立場にもある。

(8) 教育研究等環境

本学は、「同志社大学教育研究等における環境・条件の整備に関する方針」を策定、公表し、グローバル化と情報化の進展に照らして、ダイバーシティに配慮したキャンパス・アメニティの形成を目指している。そのため、学生の学びのスタイルや本学が展開する学問領域の特性等に配慮した多様な学習環境を整備している。本学では、建学の精神である「良心教育」を具現化するために、教育及び研究倫理を遵守する様々な措置を講じている。

(9) 社会連携・社会貢献

本学は、「同志社大学社会連携及び社会貢献に関する方針」を策定、公表しており、教育及び研究のいずれにおいても、学生が人間力を高める広義の教育としての基本姿勢を持って社会連携・社会貢献を推進している。

(10) 大学運営・財務

本学は、「同志社大学の大学運営に関する方針」を策定、公表し、「同志社大学ビジョン2025」に基づく中期行動計画を掲げて大学を運営している。財務は、中・長期の財政計画を策定、かつ財務関係比率に関する指標・目標を設定し、収支均衡の予算編成を掲げて運営している。財政基盤も健全な状況にあり、財務情報の公表において透明性も高い。

2. 今後の展望

本学は、2020年3月末日で現学長の任期が満了することを踏まえ、その任期4年間(2016年度から2019年度)の「同志社大学ビジョン2025」の中期行動計画の進捗状況を検証した。目標を達成できた施策や当初計画以上に成果を生み出した施策がある一方、計画当時から社会情勢の変化に伴い見直しが必要な施策や当初の予定通りに進展しなかった施策もあった。2020年度早々には、この進捗状況に沿って目標の再設定や新たに取り組むべき施策の項目立てを行い、グレードアップした中期行動計画を推進していくこととなる。

これまでの取組の結果、学士課程教育については、学習成果の把握を積み上げていく必要があるものの、教育課程、教育内容・方法、成績評価・学位授与いずれも良好な状態にあり、適切であると判断している。修士課程、博士課程及び専門職学位課程教育においても、教育に関しては整備が進んでおり概ね適切であるが、修士課程及び博士前期課程の定員充足に係る課題も含め、大学院教育のあり方に関して今一度総合的な検証を要する段階にある。本学大学院は、これまで多くの大学教員の後継者を養成してきた実績があり、今後もこの使命を堅持し、同志社のDNAを持つ学術の継承者を輩出し続ける。また、大学教員以外の高度職業専門職に就く人物養成をも人材養成目的に掲げているため、若手研究者のキャリアパス形成支援を充実させていく必要がある。